



## 「神の御業が現れるため」

～「今は見える」という証こそ大切～

彼は答えた。「あの方が悪い人間かどうか、私は知りません。けれども、ただ一つのことだけは確かです。私は盲人でしたが、今はこの通り見えるようになっていくということです。」

ヨハネ福音書9章25節 [現代訳]

世の中は嘘と偽りだらけで、真実は闇に隠され、金と権力が支配しています。

イエス様の時代も同様でした。富と権力によって腐敗していた当時のユダヤ社会の指導者階級の者たちに対して、イエス様は真実を明らかにする民の牧者としてご自身を現わされました。イエス様を通して多くの人々が神の奇蹟を経験しました。そして、各地で証しをしていきました。このヨハネ9章に登場する男性もその一人でした。

生れつき盲目ということだけで、神に呪われた人生、夢も希望もない人生と言われる中を歩んでいました。そんな社会から、捨てられたような人物に、主は近づいて、その目を癒しただけではなく、その心に、人生に希望の光を与えられました。

主は私たちの病、弱さ、問題を癒し、解決されるだけではなく、私たちの心、人生に希望の光をともしてくださるお方です。

一昨日ユース・クラブ・アップのミーティングが行われました。その中で、“現代の若者たちはこの社会に対して、また自分の人生に対して、どのように感じ、何を求めているのか？”という質問が出されて、一人の大学生が若者代表として答えてくれました。現代の若者たちは今の社会に対して、不信感、失望、あきらめを持っていると。高尚な愛とか、希望とか平和とかという感覚は中々持っていないのではないか。という意見でした。

イエス様はご自身の所にやってくる群衆をご覧になりながら、「飼い主のいない羊のように弱り果てて倒れている彼らをご覧になって、深く憐れまれ」ました。

真に養ってくれるリーダーがいなのが現代の社会であり、人類の歴史そのものではないでしょうか？ 所詮人は人を導くことはできない。人を導くことができるのは、人を作られた創造主なる神のみであると主イエス様は語りたかったのです。

実は釈迦も孔子も自分自身を拝む対象にしてはならないと弟子たちに語られたにも関わらず、後世の信者たちがその遺志を無視してしまいました。しかし、イエス様だけは違いました。イエス様は人ではなく、ご自身創造主なる神そのものでした。その証拠に、ご自身のいのちと引き換えに、私たちの命を買い戻してくださいました。そこにこそ、神のいのちがけの愛のメッセージが語られたのです。そして、神であることを証明するために、死を打ち破ってご復活なさいました。そして、信じる者と共に今も生きて働いておられるのです。そのお方によって、「今は見える」という存在になった私たち。私たちの生き様を通して、主を証ししていきましょう！